

事業内容



いよいよ20世紀から21世紀への「世紀転換」の時を迎えていますが、近年「環境破壊型経済」によってさまざまな環境問題が累積・顕在化しています。新世紀からの経済は環境への配慮なしでは成り立たないことが明白になっていて、環境的に健全で持続可能な経済いわゆる「環境保全型経済」への転換が求められています。

私たちが管理、経営している森林についても、1992年の地球サミットにおいて森林の保全と利用を両立し、森林に対する多様なニーズに永続的に対応できるような、持続可能な森林経営を行うことが採択されました。

ここ栲原には古くから蓄積されてきた、森林を育て、森林を利用し自然の木材を大切に使う、自然生態系—生活—文化をトータルにとらえた、山に対する知恵、山の思想といえるものがあります。栲原の広大な森林と森林から育まれる四万十川源流である清流は、本町の最大の資源であり、ここに育まれてきた産業、生活、文化は私たちの心の源でもあります。

これらを引き継ぎながら栲原の人々が共に生きる喜びを実感でき、また、美しい豊かな森林を21世紀を担う子供たちに引き継ぎ希望に満ちた未来を迎えるために森林と水によりどころを求めて、森林の恵みを生かしながら、地域が活性化する多様な、豊かな森林を育てるため、森林に対して以下のような基本理合で施業を行います。

1. 森林の蓄積を減らすことなく、成長した量以下の伐採にとどめます。
人工林については保続的な収積を確保するため、森林や森林の所有者及び森林の生育状況や木材価格などの経済動向を勘案して、長持間をかけて齢級構成の平準化を図ります。
2. 生物多様性、森林生態系を維持するため、森林に対する手入れ、保護林などの設定により森林の多様化を図ります。
天然林については、生物多様性、森林生態系の健全性を図ることから保全することを基本とします。また、人工林においても沢沿いや尾根筋については漸次、間伐などで人工林を収積して天然林へ誘導します。
3. 社会的、多面的な視点を含め森林の循環を確立する。
近年の「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を求める価値観の変化の中で、「森林」が人類共通の財産として認識されつつあり「森林」と「街」との思いをつなぐ情報の交換を行っていきます。

「山中八策」

さんちゅうはっさく

梶原町森林組合行動指針

21



青い星「地球」。

このかけがえのないふるさとを守るために、私たちに何ができるのか。

「地球規模で考え、この地で活動する。」

私たちの出発点は、ここに 있습니다。

清流四万十の源流に活動(いき)る森林組合として

私たちは、できること、なすべきことは何なのかを考えてきました。

そして、「四万十川源流に活動(いき)る民として、森林と共生する生活を進めよう」を合言葉に、環境保全、持続可能な森林管理を推進する事業体を宣言し、FSC(森林管理協議会)の認証を受けました。

グローバルな森林組合への自己改革をめざして

一世紀前、坂本龍馬は、船中八策を掲げ、維新の夜明けをめざして、この梶原から旅立ちました。

環境の世紀、21世紀の幕開けを迎える今、私たちは、この龍馬の気概に学び、

FSCの理念を大切に、真に森林と共生し、四万十川の流れを、黒潮の海を、そして青い星「地球」を守るグローバルな森林組合への自己改革をめざし、梶原町森林組合行動指針21「山中八策」を定め、再出発します。

平成12年10月

高知県梶原町森林組合



行動指針21

山中八策

1. 森林との共生の絆を強め、生態系を豊かにする森林施業を行います。
2. 森林の蓄積を減らさない持続可能な森林経営を行い、森林からの恵みを活かし地域の発展に努めます。
3. 水源林や河畔林は、私たちの水瓶と四万十川の清流を守ることを第一とした保全管理に努めます。
4. 森林の持つ癒し、リフレッシュ、空気浄化、水源涵養、国土保全など多くの公益的な機能について、広く国民に理解を求める活動をします。
5. 森林は人類の宝と位置付け、都市住民と連携した森林づくりを進めます。
6. 循環型社会における木材の価値を再認識し、その利用拡大に努めます。
7. 事業活動における環境や社会への影響を科学的に評価し、適切な事業活動を行います。
8. 森林を汚さない、傷つけない生活を心がけ、森林を愛し、森林に遊ぶ従業員を育てます。

名称 梶原町森林組合
住所 〒785-0644
高知県高岡郡梶原町
広野647番地
電話 0889-65-0121
ファックス 0889-65-0788

FSC国際森林認証への取り組み

森林は、梶原町の長い歴史の中で私たちに林産物などの生産財や、生活の潤いや癒しといった環境財としての価値をもたらし、暮らしを豊かにし、梶原の民族文化や地域社会を形成してきた。こうした、先人たちの培ってきた「自然と共に生きる知恵、共生と循環の思想」と、大部分の森林が長伐施業への転換を目標としており、強度の間伐を実施し、林内への太陽光を取り入れることによって、下層植物が繁殖し、動植物の多様性も図れることとなっている状況等、地域がこれまで培ってきたものや地域の林業の方向性とFSCの認証基準が同方向であること。

また、組合ではコンピュータによって申請に必要な町内データ管理が進んでいること、製材工場や木材乾燥施設を所有し、認証のメリットを発揮しやすいことなどから、乾燥や強度・品質の保証された商品と、四万十の持っているブランド力にさらに森林認証ブランドを重ねることで、地域の森林から生産される木材に新たな付加価値が生まれる可能性と環境保全意識の普及など地域の活性化に効果が期待できると考え、認証取得を決意し取り組み、2000年10月にグループでは国内で初めて森林認証を取得した。

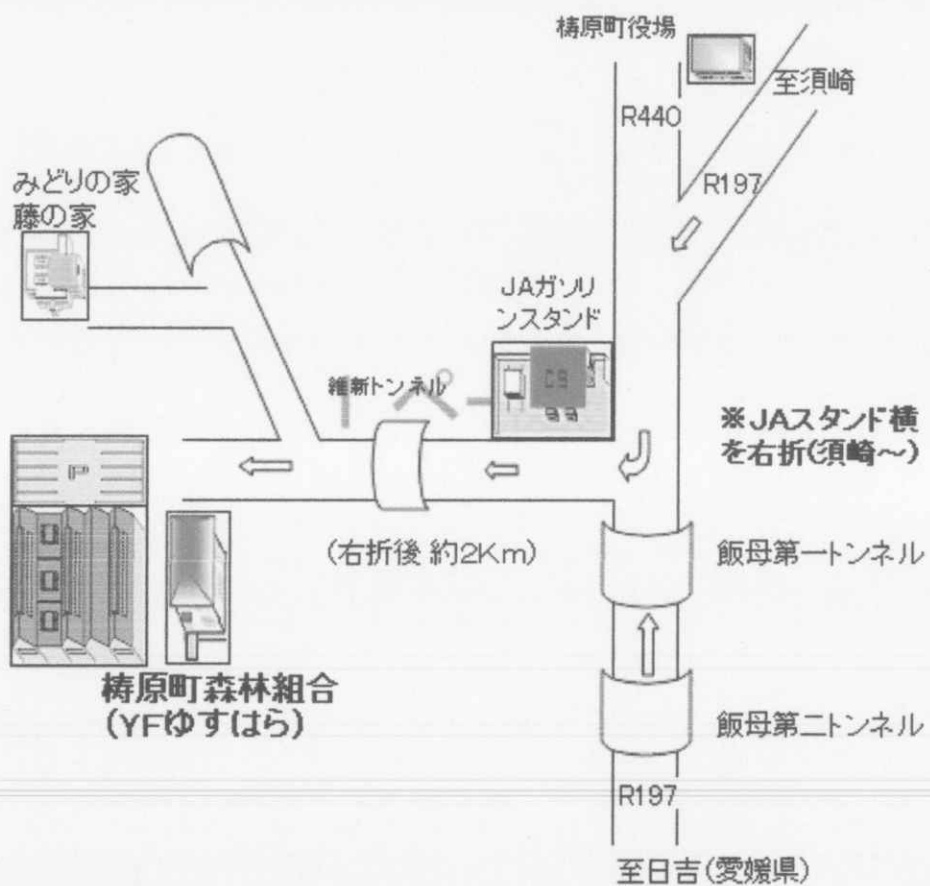
☆-☆-☆-☆-☆-☆☆-☆-☆-☆-☆-☆☆-☆-☆-☆-☆-☆☆-☆-☆-
☆

FSCによる国際森林認証について

FSC視察申込



栲原町森林組合案内図





栲原町 森林価値創造工場
製品表示マーク

清流育む樹木の里、栲原町を
大地に根付く力強い原木のイ
メージでシンボル化しました。
楕円形は森林守り、未来へ
も受け継いでゆくという形を
象徴化したもの、そのまわり
の円形は木が人々に与える恵
みを表します。ブルーは谷間
を流れる四万十川源流のイメ
ージです。

高知県栲原町森林組合

森林価値創造工場

Y.F.ゆすはら

〒785-0644 高知県高岡郡栲原町広野647
TEL 0889-65-0992 FAX 0889-65-0799

森林との共生をめざして

四万十源流の町ゆすはらの森林・林業

高知県栲原町森林組合

〒785-0610 高知県高岡郡栲原町栲原1196番地1
TEL 0889-65-0121 FAX 0889-65-0788
<http://www.yushihara.or.jp/>



青い星「地球」。

このかけがえのないふるさとを守るために、私たちに何ができるのか。「地球規模で考え、この地で活動する。」私たちの出発点は、ここにあります。

森林との共生をめざして。。。

清流四万十の源流に活動る 森林組合として

私たちは、できること、なすべきことは何なのかを考えてきました。そして、「四万十川源流に生きる民として、森林と共生する生活を進めよう」を合言葉に、環境保全、持続可能な森林管理を推進する事業体を宣言し、FSC（森林管理協議会）の認証を受けました。



グローバルな森林組合への 自己改革をめざして

一世紀前、坂本龍馬は、船中八策を掲げ、維新の夜明けをめざして、この橋原から旅立ちました。環境の世紀、21世紀の幕開けを迎える今、私たちは、この龍馬の気概に学び、FSCの理念を大切に、真に森林と共生し、四万十川の流れを、黒潮の海を、そして青い星「地球」を守るグローバルな森林組合への自己改革をめざし、橋原町森林組合行動指針21「山中八策」を定め、再出発します。

平成12年10月 高知県橋原町森林組合



山中八策

橋原町森林組合行動指針21

- ① 森林との共生の絆を強め、生態系を豊かにする森林施策を行います。
- ② 森林の蓄積を減らさない持続可能な森林経営を行い、森林からの恵みを活かし地域の発展に努めます。
- ③ 水源林や河群林は、私たちの水瓶と四万十川の清流を守ることを第一とした保全管理に努めます。
- ④ 森林の持つ癒し、リフレッシュ、空気浄化、水源涵養、国土保全など多くの公益的な機能について、広く国民に理解を求める活動をします。
- ⑤ 森林は人類の宝と位置付け、都市住民と連携した森林づくりを進めます。
- ⑥ 循環型社会における木材の価値を再認識し、その利用拡大に努めます。
- ⑦ 事業活動における環境や社会への影響を科学的に評価し、適切な事業活動を行います。
- ⑧ 森林を汚さない、傷つけない生活を心がけ、森林を愛し、森林に遊ぶ従業員を育てます。

樽原町の 森林認証への取り組み

森林は、樽原町の長い歴史の中で私たちに林産物などの生産財や、生活の潤いや癒しといった環境財としての価値をもたらし、暮らしを豊かにし、樽原の良風文化や地域社会を形成してきました。こうした、先人たちの培ってきた「自然と共に生きる知恵、共生と循環の思想」と、大部分の森林が長伐期施業への転換を目標としており、強度の間伐を実施し、林内への太陽光を取り入れることによって、下層植物の繁殖を促し、動物の多様性も図れるようになっている状況など、地域がこれまで培ってきたものや地域の林業の方向性とFSCの認証基準が同方向であることに着目しました。

また、組合ではコンビクターによって申請に必要な町内森林のデータ管理が進んでいることや製材工場や木材乾燥施設を所有し、認証のメリットを發揮しやすいことから、乾燥や強度・品質の担保された商品と、四万十の持っているブランド力にさらに森林認証ブランドを重ねることと、地域の森林から生産される木材に新たな付加価値が生まれる可能性と環境保全意識の普及など地域の活性化に効果が期待できると考え、認証取得を決意し取り組み、2000年10月に、団体としては国内初めて森林認証を取得しました。

管理チームは、現場の調査に臨行している作業について、「なぜ」「どうして」「何の目的か」といって疑問を払い直し、

● 審査（平成12年5月14日～20日）
認証機関（スマートウッド）の審査員ウォルター・スミス氏と日本の審査員3名（審査チーム）が樽原町に入り、FSCによる認証審査を行いました。



森林現場調査



製材工場の審査



公選会

1 舟形山の人工林については、現地の状況をみながら樹種を切り直し、広葉樹林へ誘導していくこと



組合の主な取組方針



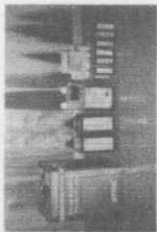
2

今ある広葉樹林をできるだけ守っていくこと



3

林業従事者の道徳をつくる場合、道徳への影響を最小限に努めること



4

環境にやさしいバイオオイルを使用すること



5

従業者の健康を高め、トレーニングを実施すること

歴史的な経緯

平成10年	11月-12月	森林認証制度勉強会（自主主催）
平成11年	2月	森林認証制度勉強会（町、組合）
5月	スマートウッドによる認証制度現地勉強会（森研）	
7月～	樽原町森林組合、申請者等集 97名（団体含む）勉強会各機関開催	
12月	認証審査申し込み 2,250ha	
平成12年	5月	認証審査
10月	森林認証	
平成13年	1月	認証商品の発売開始



森林認証とは

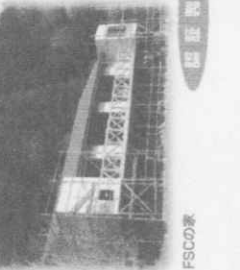
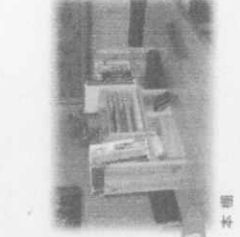
熱帯雨林の破壊など森林環境に対する関心が高まるなかで、適切な森林管理を行うことが求められています。こうした中、国際的な審査機関である森林管理協議会（FSC:本館メキシコ）では、環境に配慮し適切な森林管理を進めるため、環境団体、木材関係者などと協議し、適正な森林管理に関する原則と規程をつくるとともに、こうした森林を認証し、また、認証した森林から生産される木材にFSCマークをつけ販売することで製品の信頼性を保証する仕組みをつくっています。

森林認証制度



FSCのロゴマーク

このマークのある製品はFSCの規程に準じ、独立した機関により認証され、適切に管理された森林より切り出された木材から作られています。



本館

FSCの家

梱包材

YUSUWARA FOREST OWNERS' COOPERATIVE
Is certified by SmartWood as a well-managed source of wood products whose forest management practices adhere to strict environmental and socioeconomic standards in accordance with the Principles and Criteria of the Forest Stewardship Council (FSC).
Yusuhara Forest Owners' Cooperative is also certified as a Free Standing source of sustainably sourced wood.
SmartWood is a program of the Rainforest Alliance.

認証書 (暫し)

株式会社ヨシワラがFSCの規程に準じ、環境や社会経済に尊重される森林に属して適正に管理された森林から木材生産を行っていることを、スマートウッドが認証します。株式会社ヨシワラはスマートウッドが実行する森林加工工場についても認証します。

スマートウッドはレイナフォレストアライアンス(RA)のプログラムです。

レイナフォレストアライアンス スマートウッド
リネート、リネート、エ、トリノ
A1 1446, Street, Richmond, V1V 0M7
E: info@ra-international.org
T: (604) 273-5200
www.ra-international.org



- ### 今後の取り組み
- 1 FSC製品の消費が四万川遊流の自然を守ることにPRにもつながるため、その販売を進めていきます。
 - 2 環境に配慮した住宅メーカー、工務店との提携を進めていきます。
 - 3 今後品質、健康、安全には充分配慮した木材製品を販売していきます。
 - 4 ホームセンター、通販などと提携し、環境に優しい製品を消費者に提供していきます。
 - 5 どの森林から運出したか(産地)を明らかに、生産者と消費者がお互に信頼することが出来るシステムを提供していきます。
 - 6 認証森林をはじめ、自然に触れることのできるエコツアーなどを企画していきます。

変わる消費者

消費者は、FSCマークがついた製品を選ぶことにより、環境に配慮した森林づくりを応援することになります。欧米では、消費者が環境に負荷の少ない製品を選択的に購買しようとする動きが盛んなため、ホームセンターや木材流通業者などと環境団体が、FSCマーク製品の流通に協力するバイヤーグループを立ち上げて、消費者にFSC製品を提供しています。

認証森林が増加中!

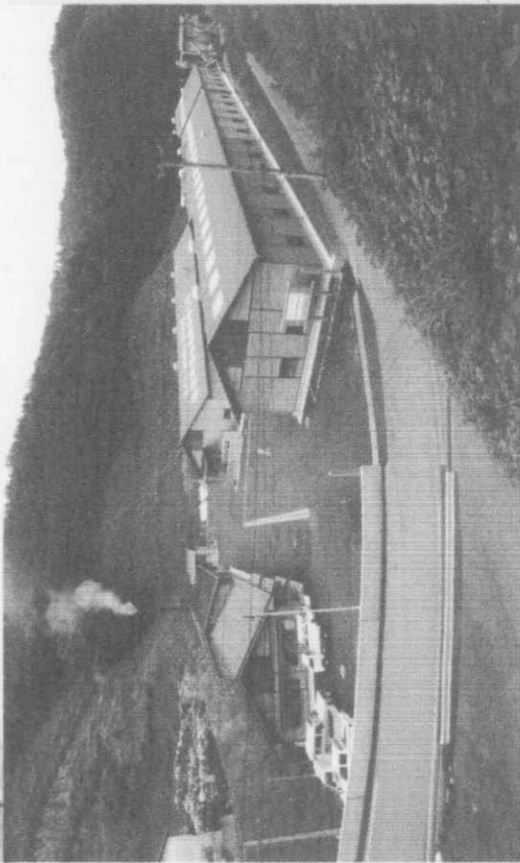
2000年8月末現在、世界33カ国、約1800万haの森林が認証を受けています。その面積は、年々著しく増加しています。

FSCマークは、森林管理協議会が自然保護と林業を両立していることを認めたいです。つまり、自然に優しい木の製品の目印となります。

森林価値創造工場

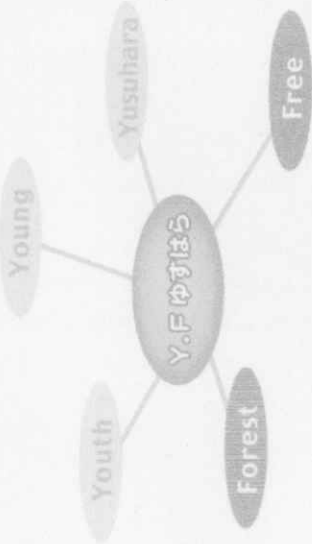
JAS認定工場
平成7年度林業山形活性化林業構造改善事業（総合型）
林産物加工施設整備・素材生産施設整備事業

Y.F ゆすはら



森林価値創造工場は平成7年度活性化林業構造改善事業によって設置した、林産物加工施設の施設名として命名したもので、従来からの製材工場のもつイメージを一新し、単なる原木丸太材の製材だけでなく、森林（forest）のもつ無限大の豊かさ、価値（value）を増大させるべく、新たな発想と創造（create）により「生産材」として、また「環境財」として活かすことを誓って名づけました。

また、愛称の「Y.Fゆすはら」は、youth（若さ・元氣）、young（若い・清新な）、yusu-hara（ゆすはら）の「Y」と、forest（森林）、free（自由な）の「F」を採用し「Y.Fゆすはら」としました。



木の里

意の上 清法育毛 森林と

木と赤と左隣です

森林価値創造工場整備基本計画 [平成4年作成時]

本町の林野面積は、21,425haで総面積の91%を占め、平坦地の少ない当町では、林業は最大の基幹産業です。
民有林の人工林率は73%となっており、階級別にみると、現在、除間伐を必要とする7齢級以下の人工林がほとんどで、90%を占めています。

また、山林所有規模は帯細で10ha以下の小規模事業者は66%を占め、50ha以上はわずかに2%に過ぎない状態であり、資産的保有意識が強く計画育林に対する意欲は比較的に少ないのが現状です。

昭和31年に設立された当組合も、昭和55年頃までは、拡大造林主体の造林事業を中心とした事業運営による運営を経て、昭和54年以降の森林総合整備事業、間伐総合対策事業の地域指定による間伐実施、作業路開設、また、昭和55年からは、第2次林業構造改善事業での小径木処理工場の設置による加工事業の開始などにより、同年以降は、販売部門、利用部門の事業益がほぼ同額で推移してきたが、人工林率が73%となった今日、拡大造林は激減し、4～7級が10,332haと人工林の78%を占める階級構成から、現在の切り捨て間伐を中心とする保育事業も減少の傾向が考えられます。

一方、戦後営々と造林してきた森林は、資源的に10年後には、主伐、間伐により40,000m³/年を超える素材生産量となる蓄積を持つまでに成長してきました。こうした中、組合事業も販売部門にウエイトを置いた今後の事業運営を展開しなければならなくなってきています。そこで、今回の活性化林業構造改善事業の地域指定により、以下を基本とした、加工施設の充実を図ります。

1 製材施設規模

平成3年現在、径級16cm以下を中心に、原木消費量4,361m³/年加工を行っているが、今後、搬入原木量が大きくなることから、中径、大径材も加工できる12,600m³/年の原木加工可能なラインを導入し、生産性及び品質向上に努めるとともに、構原産材のブランド化の確立を進める。

2 消費原木確保対策

平成3年現在の当組合の素材扱量は10,899m³/年となっているが、今回の林業生産施設整備事業により素材生産用機械及び施設を導入することにより、19,000m³/年を扱扱いその内、12,600m³を加工部門へ供給する。

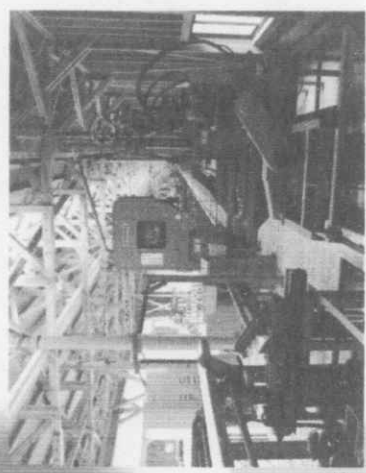
3 製品販売計画

現在の取引先を最優先し、取引量を拡大するとともに、京阪神、九州、関東の市場を開拓し、製品問題を中心に販売していく。

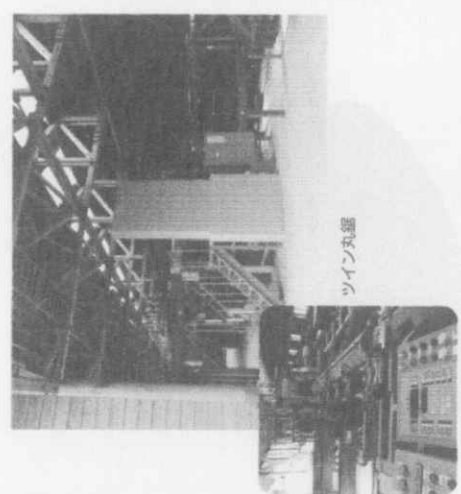
町内	(建築、建設業)	200m ³
四圍	(高知、松山、高松)	3,800m ³
その他	(京阪神、九州、関東)	4,400m ³
		(合計 8,400m ³)

電の上 晴照高を森本の里
 森林はみどりのシャワーです
 自然が丘にとどく町
 人とみどりのふれあふ町
 森林を愛する町 かしはら

森林価値創造工場 主要施設



新製盤全自動産材庫
 (チャージャー付)



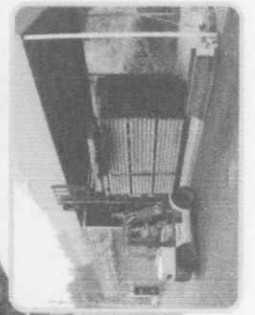
ツイン丸鋸



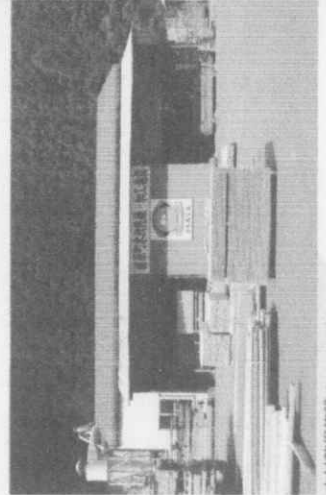
リングバーガー



モルター



木材乾燥機



木材乾燥施設 (かんぼく)

ユースフォレストー [発足：平成5年4月]

1 基本構想

今日の森林・林業の状況は、地球環境保護及びコスト高による輸入材の高騰などにより、近い将来、国産材時代の到来とともに全国の産地間競争が激化するものと予想されます。一方、本町の現状は林道、作業道などの基盤整備及び切り捨て間伐などによる森林整備は進んでいますが、人工林の6～8割が人工林の48%を占める齢級構成となり、森林資源が充実する中で、利用間伐及び主伐が、従事する林産技術員の高齢化により減少傾向にあります。

このため、森林組合内に、職員同等待遇雇用による、若い技術集団「ユースフォレストー」を編成し、チームによる作業道開設、木材搬出、山元貯木場への輸送及び原木選別までの作業を行うほか、機械化による省力化、安全化を図り、川上側としての一環した作業体系を構築します。今後、従業員が社会保険をさらに充実させるとともに、町内木材、製材業者との連携を密にし、原木供給体制を確立させます。

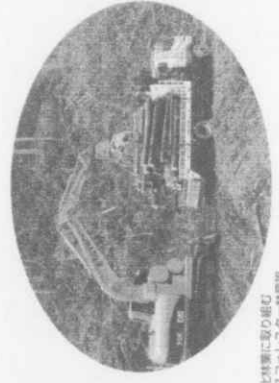
2 所属体系、業務内容及び資格取得状況 (平成13年3月現在)



班名	業務内容	主要設備
森林整備班	作業道の効率的な経路選定・開設	バックホー、ダンプ
林産班	高性能機械を使用した伐採・搬出	タワーヤーダー、フォワーダー、グラップルプロセッサ
集配選木班	木材の集荷・選木・配送	グラップル付4t車他重機付台、木材自動選定機、フォークリフト



作業道開設のユースフォレストー森林整備班



機械化作業に専ら従い
 ユースフォレストー林産班

林業情報システム

1 情報システムの経過

組合の各事業経営については、昭和54年1月林構による小径木処理工場の運営により、販売事業の拡充、また昭和55年度の森林総合整備事業地域指定により各事業量が増大し、内部事務も複雑になりました。このため、組合員のニーズに迅速かつ正確に対応することが困難となってきたため、事務の合理化として電算化することとしました。

昭和62年3月	NECシステム50VS-1社、機材2台 経理、企画、購買管理、労務、木材運送管理 (ソフト＝国産の東洋野村林業組合との共同開発)
平成3年4月	組合員管理ソフト

その後、作業路設計、森林施業計画のソフト開発を行いました。

2 林業情報処理促進施設導入（平成5年林構）の狙い

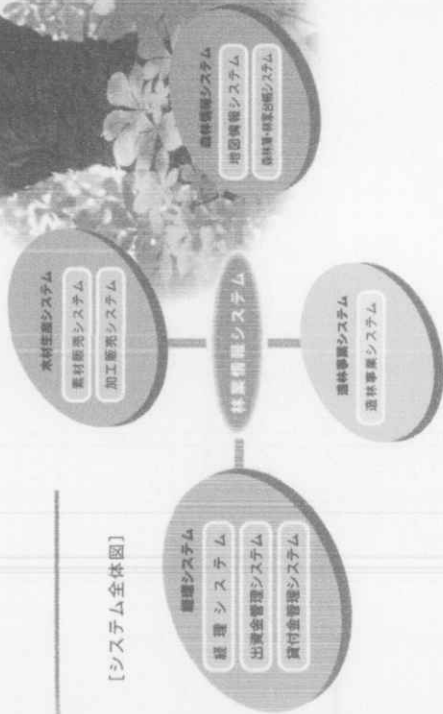
林業情報は、森林の位置、立地、現況、施業履歴・計画、経営・収益見込みなど多岐にわたっています。従来、組合事業では職員の長期にわたる経験によりこれらのことが実行されてきました。しかし、現在の森林・林業は、構造的な長期不振による林業の経営難、後継者の減少、従業者の高齢化に伴う林業機械の高性能化、森林が生産材と森林レクリエーションなどにみられるような環境財との共存化などによる、多岐・大量にわたる森林・林業経営管理に関する情報の有効利用を進めるため、梶原町では昭和58年の国土調査の完了、また、当組合が長期にわたり蓄積してきた森林の現況、施業履歴、林家台帳の情報を基に、本町内の林業情報を一元化に処理する施設として導入したものであり、林構（ソフト事業）の林業情報活動事業と一体的に実施し、効率的な資源管理、森林施業の共同・計画化、生産・流通・加工の合理化、ロットの拡大、需要動向の把握などを迅速に実施しようとするものであります。

- 基本情報
- 町域内の林業情報の収集、集積と活用、計画化
- 林業生産計画
- 林業労働力の需要と労務計画

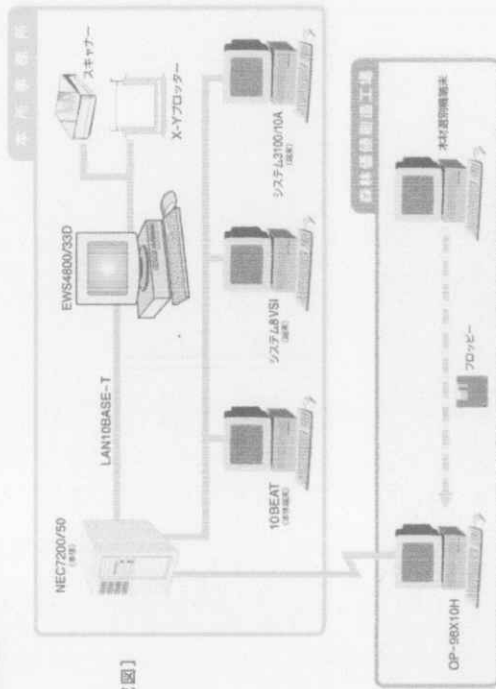
- 指導、研修
- 林産物の会計事務の集約化
- その他必要なもの

- 質的効果
- 基本図と森林簿データを一体化して、両者のデータの整合性を高める
- 必要なデータをデータベースから随時検索する
- 最新のデータを林業などに図面、図表で提供する
- 的確な森林計画業務の迅速化・省力化をはかる
- 施業の集団化や設備開設効果判定、組合業務の進行管理などにかかる業務量を削減させる
- 地域林業の組織化を図り、組合の運営活動を強化する情報生成を可能とする
- 手計算、手帳計を大幅に減少させ、GUI・対話方式により、初心者でも煩瑣かつ大量の情報処理を行うことができる

【システム全体図】



【ハードウェア構成図】



【システム投資額】

種別	ハードウェア	ソフトウェア	追加費	集約費	備考
総額システム	5,000	1,700	6,700	0	6,700
木材生産システム	9,954	1,500	11,454	22,127	9,344
遺失管理システム	7,017	13,000	20,017	0	1,686
追加情報システム	1,686	—	1,686	0	1,686
NEC 9821-note	23,657	16,200	39,857	22,127	17,730
計	16,971	14,500	31,471	22,127	9,344

7桁目：千円
下段は補助費に係る金額で内訳

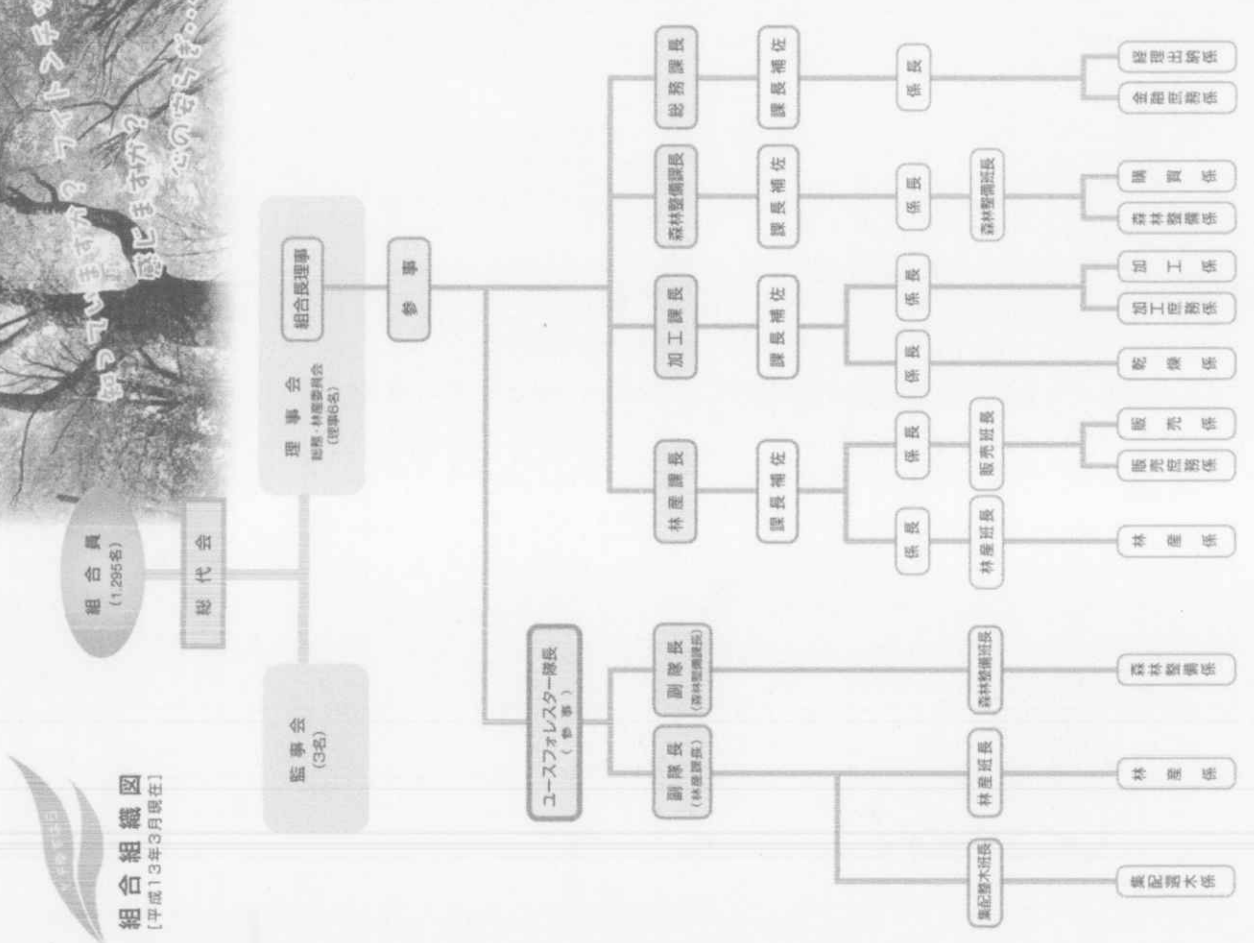
組合の事業推移 [設立：昭和31年9月]

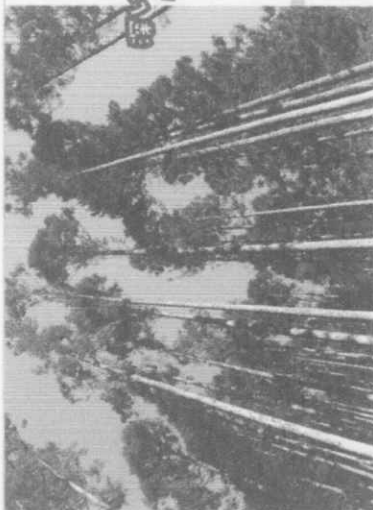
区分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
組合員数(人)	1,295	1,294	1,295	1,295	1,299
林産物出荷量(千kg)	137,785	140,061	141,003	142,894	145,726
常設林業員(人)	1	1	1	1	1
非常勤林業員(人)	5	5	5	4	4
職員(人)	3	3	3	3	3
職員数(人)	13	11	11	11	11
従業員数(人)	25	19	23	22	20
森林・林産物関係(人)	50	69	46	40	49
総事業	11,875	11,721	12,559	11,942	12,036
金額(千円)	190,131	178,943	207,038	164,389	155,422
林産事業	6,446	4,975	6,458	5,363	3,202
金額(千円)	104,444	79,189	112,421	77,736	41,449
加工事業	4,667	5,001	4,730	4,696	4,366
金額(千円)	218,630	223,978	218,504	213,976	202,188
購買事業	19,628	14,598	14,297	20,784	17,227
金額(千円)	302,779	300,980	319,902	283,603	344,032
森林関係	1,194	1,230	1,304	1,088	1,216
内、関係(人)	722	767	930	735	861
作業員(人)	8,297	13,106	13,137	9,930	10,223
収入(千円)	747,686	655,855	503,120	417,777	354,266
内、関係(千円)	19,499	19,499	19,499	19,499	19,499
関係(千円)	728,187	636,356	483,621	398,278	334,767
事業収入(千円)	790,343	774,791	870,280	769,498	761,519
事業収入(千円)	664,311	672,870	766,509	674,216	660,829
事業収入(千円)	126,032	101,921	101,771	95,282	100,690
事業収入(千円)	107,479	96,324	90,756	87,853	83,657
事業収入(千円)	18,553	5,597	11,015	7,429	17,033
事業外利益(千円)	△ 6,829	1,940	△ 2,267	△ 4,017	△ 6,800
事業外利益(千円)	11,724	7,537	8,748	3,412	10,233
特別利益(千円)	0	△ 54	22	2,775	115
税引前当期利益(千円)	11,724	7,483	8,770	6,187	10,348
当期利益(千円)	2	2	2	2	2
期末利益(千円)	194,274	200,577	203,989	207,046	213,168



見えますか？ 四季の影どい
聞こえますか？ 森林のハートビート
感じますか？ フォト>手帳作
感じますか？ 心のざわめき

組合組織図
[平成13年3月現在]



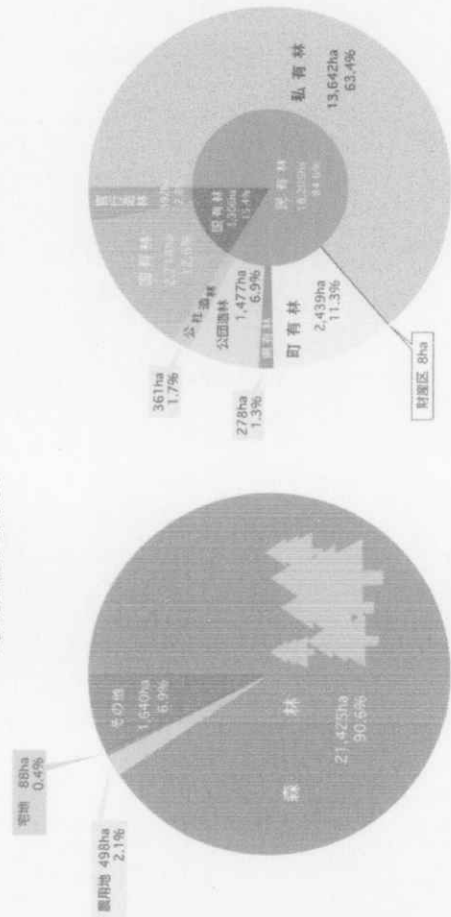


深い緑の山々 白い雪
雪を吸って四万十の涼風
そしてそびえ立つ心豊かな人々

梶原町の
森林・林業

梶原町は高知県中西部の愛媛県境に位置し、四国山脈に抱かれ四万十源流地域の一面を占める山村です。後背地には最高点1,456mの四国カルスト高原が連なり、四万十川上流の梶原川が流れ南部に向けて徐々に低くなり、梶原川及びその支流沿いにわずかな平坦地が点在しています。年間降雨量は2,300mm余り、年平均気温は13℃で、冬季には積雪も見られます。地質は秩父古成層と中生代四万十帯に属し、四国カルスト高原にはカレンプエルド、ドリーネ等の石灰岩地形が見られます。また、土壌はBD～BD(d)が主で、植林適地です。町の面積は23,651haと県下でも広いほうで、この内91%の21,425haが森林で占められており、人工林率は74%に達します。

人口は、戦後まもなく1万人を超えていた時期がありましたが、平成13年2月末現在、4,581人と、人口の減少と高齢化が進んでいます。産業では、就業者がもっとも多いのは農業であり、最近では米ならず、小なすなどの雨よげハウス栽培に取り組んでいます。町土の91%の森林を背景にした林業も中核的な産業であり、林道、作業道や製材工場の基盤整備と併せ、副産物を積極的に進めてきました。さらに、森林づくりの方向性を明らかにし政策を進めていくため平成12年9月に「梶原町森林づくり基本条例」を制定。また、梶原町は兵庫県西宮市との友好交流協定を結んでいるほか、風力発電所の設置、津野山神楽、芝居小屋「ゆずはら座」、志土流澤の道、千枚田オーナー制度、雲の上のホテル・温泉など自然、文化を活かし都市との交流にも積極的に取り組んでいます。



土地利用の状況
(2002年梶原町資料)

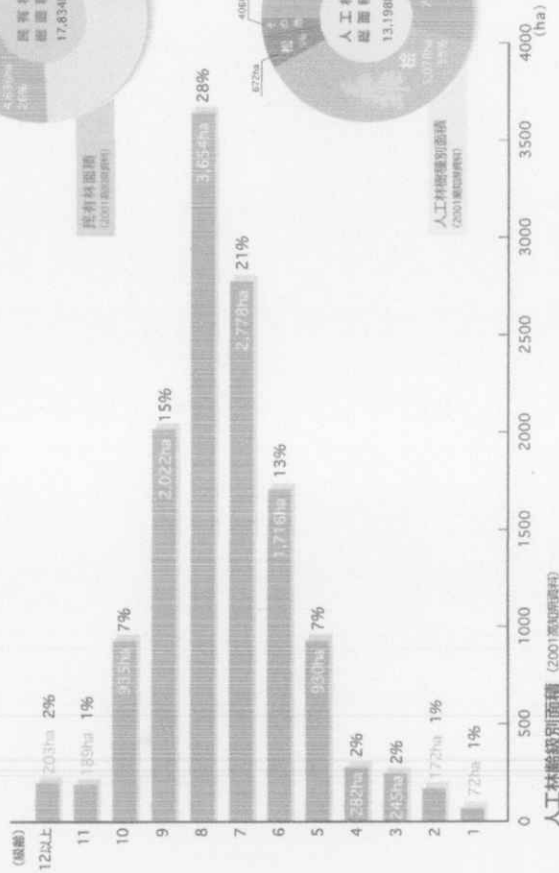
民有林国有林の状況
(2000年世界森林センサス)

保有形態別
規模別
現況表
(2001高知県資料)

区分	100㎡未満	101㎡～100㎡	100㎡～500㎡	500㎡以上
員数(A)	1,641	1,638	2	0
面積(Ba)	598	5,654	284	0
面積割合(Bb)	3.3	31.4	1.6	0
員数(A)	14	10	4	3
面積(Ba)	7	29	832	3,439
面積割合(Bb)	—	0.2	4.6	19.1
員数(A)	139	125	0	0
面積(Ba)	49	353	0	0
面積割合(Bb)	0.3	2.0	0	0
員数(A)	1,794	1,773	6	3
面積(Ba)	654	6,036	1,116	3,439
面積割合(Bb)	3.6	33.6	6.2	19.1
面積割合(Cb)				100.0

所有者町内在住・不在状況 (2001高知県資料)

区分	町内在住		町外	
	員数	面積	員数	面積
員数(A)	3,577	189	145	334
面積(Ba)	15,237	2,397	389	2,786
面積割合(Bb)	85	13	2	15



造林・間伐実施状況 (組合実績)

区分	平成15年度		平成16年度		平成17年度		計
	面積	立木	面積	立木	面積	立木	
間伐林	6	9	6	21	28	14	
高 齢 林	4	4	2	10	12	6	
林 地 大 改 造	23	29	50	1	0	21	
計	33	42	58	32	40	41	
備 考	722	767	930	735	861	803	



路網整備の状況 (平成14年度前期現在・間伐計画)

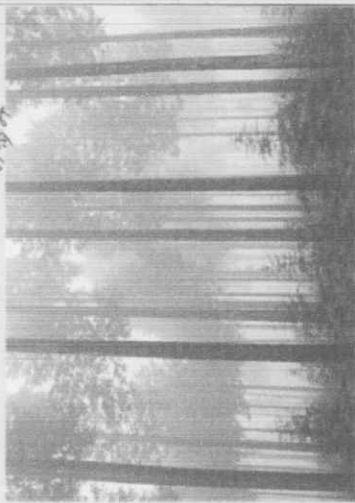
区分	路網数	林内風長	活断密度	備 考
国・県・市道	251	389,188	21.6	
農 道	68	47,616	2.6	
林 道	58	148,592	8.2	
作業道	404	282,838	15.7	三二作兼用道含む
計	781	868,236	48.2	民有林認許 18,028ha

(m, m/ha)

構原町独自の施策

- 「シーダー枠すばらしの組織化 (平成14年7月)」
正式名称は構原町林業振興協議会、全町町民参加型団体
- 「ユースフォレスト」の発足 (平成13年4月)
森林組合の活性化推進チーム (専員17名)、作業区別と養分林業の促進
- 防犯法人「構原町若者定住農林業振興基金」の設立 (平成15年7月)
農林業後継者の育成確保を目的
- 構原町独自の森づくり条例の制定 (平成15年3月: 259ha)
多様な森づくりのためのモデル林の指定
- 間伐士、造材士の認定制度
育成士151名、造材士71名
- 間伐材出荷奨励金 (上限5,000円/年)
森林組合へ出荷 (作業奨励) し、奨励金として1,000円/m³を助成
- 芦川地区森林協定 (平成15年3月締結: 440ha)
県・市・町・構原町公団、森林組合、生産組合が指定森林の経営の共同化を進める
- 芦川地区四十万石流ふれあいの森林づくり事業協定 (平成11年3月: 246ha)
四十万石の周辺であり、飲料水の水源域である芦川(国営森林→県営河川)が水源林を育成
- 構原町森林づくり基本条例 (平成12年9月制定)
多様な森林を持続づくりの基本方針を町・事業者・町民の共同化
- 構原町水源地域森林整備交付金事業 (平成13年～平成17年)
構原町独自の林業生産者カブリング (森林組合に10万円/ha)
- 構原町産材利用促進事業 (平成14年～)
構原町産材を使用した優良住宅を奨励し、200万円/棟程度に木材代を助成

森林・林業の歩み



構原町産材と水の文化のまちづくり推進事業実行
四十万石流ふれあいの森林づくり
農道、森林組合 単独投資型

四十万石流の活用
木古屋 (300㎡)、木古屋 (600㎡) の贈り
おらんく玉炊釜 (700～500)

構原町林業振興協議会 (150000円) 協成

総合林業構造改善事業 (1500000円) 協成 (100) 協成 (100) 協成 (100)
林道整備、傾斜地改良、高圧送電線、高圧送電線
森林生産施設、林業加工施設 (500万円)

本町川公園に森林生態学研究所 (1500万円)
林業振興基金 (1500万円)
水源地域森林整備推進事業 (1500万円)
ユースフォレスト事業

町有林の管理及び管理に関する条例制定
構原町林業振興協議会協成

県民総合センター (1500万円) サミット開催
森林組合企業組合 (1500万円) 協成
森づくりの条例制定

県民総合センター (1500万円) 協成
全国「水の国」の指定
間伐材利用促進制度 (1500万円)

森林組合新工場、森林生産施設、林業加工施設
町民50周年記念式典

林業山研シンポジウム「林業・森林の未来、同歩」を開催
芦川地区森林組合協成

芦川地区四十万石流ふれあいの森づくり協定
木材販売、加工施設

町民総合センター (1500万円) 協成
新工場、シンポジウム開催
森林組合企業組合 (1500万円) 協成

FSC森林認証取得 (1000万円) 協成
構原町産材づくり基本条例制定

構原町水源地域森林整備交付金事業 (1000万円) 協成
森林整備に際し1ha当たり10万円の交付金